

補正 予算

9月17・18日の予算特別委員会で、今年度の福山市一般会計補正予算を審議しました。日本共産党の討論の概要をお知らせします。

補正予算案は、歳入歳出それぞれ5億4402万3千円を追加し、2019年度の総予算額を1746億1402万3千円とするものです。

新ごみ処理施設に 834億200万円

新しいごみ処理施設を建設して市内全域と府中市・神石高原町の可燃ごみを一手に処理する「ごみ処理施設整備・運営事業」に、2020年度から2043年度までの債務負担行為として限度額834億200万円が計上されています。

債務負担行為とは、予算は単一年度で完結するのが原則ですが、1つの事業が単年度で終わらずに後年度にも負担（支出）し続けなければならない

場合に、あらかじめ後年度の債務を予算で決めておくことです。

今回の債務負担行為は、一般会計予算の約半分にあたる規模です。

1人あたりの市債 29万円から35万円に

そのため、2018年度末には29万8千円だった市民1人あたりの市債（市の借金）が、今後35万7千円にまで増えます。10月からの消費税増税など市民生活が厳しい中、将来的な市民負担を増やすべきではありません。

焼却ごみ減らし 広域処理やめよ

そもそもごみ処理は、自分の市町で排出したごみはその市町内で処理する自区内処理が基本です。

他市町のごみを処理すること

ことで建設費用が増高するあり方は問題です。

また、焼却処分削減をすべきです。現在6種類の

ごみ分別収集をさらに細分化して資源回収を高めるよう求めましたが、取り組みとの答弁はありませんでした。

メリットのない 公設民営方式やめよ

事業方式として公設民営のDBO方式が望ましいとしています。DBOとは、施設を建設するときに、自治体が財源を確保し、その設計・建設や運営・維持補修を民間事業者に一括発注し、長期間にわたって委託する方式です。

公設公営方式とDBO 方式での運営を比較した 場合の公共財政負担削減 率は2.5%で、他市と 比較しても数値が小さく、 DBO方式のメリットは

ありません。それにもかかわらずDBO方式に固執するあり方にも問題があります。

別養護老人ホームの定員

増や市営住宅の外壁改修、小規模福祉施設の非常用自家発電設備の設置などがあり、大部分は賛成できず。

くらし・福祉 最優先の予算を

しかし、市民に多大な負担を押し付けるごみ処

建設水道 委員会

手城川流域の浸水対策進む

浸水被害が相次ぐ手城川流域の東深津町と南蔵王町エリアに雨水排水

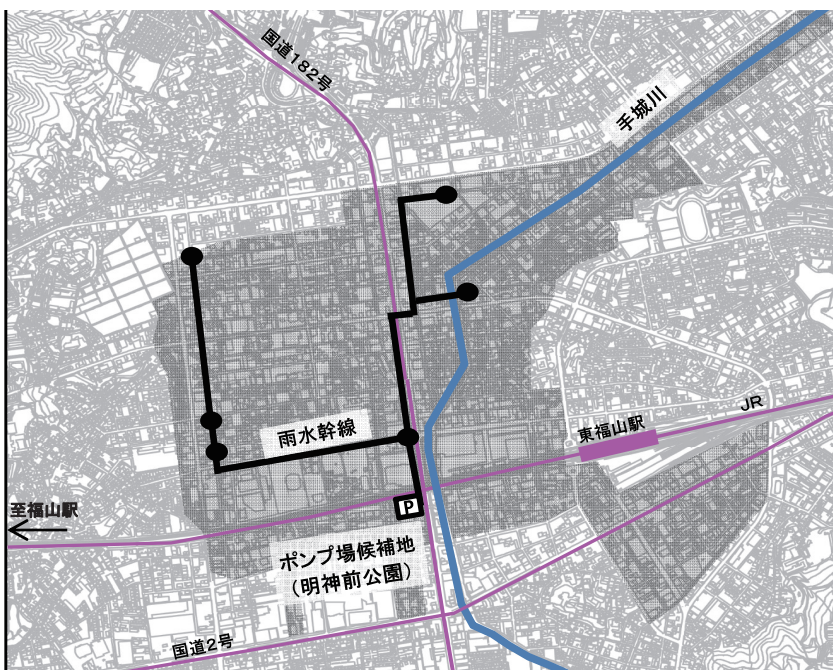
を敷き、明神前公園に排水ポンプ場を設置する計画が明らかになりました。

昨年8月豪雨で降った243ミリの雨量でも床上浸水を防げる見込みです。来年度に設計に入り、2021年度にポンプ場ともに工事に着手し、2024年までに完成予定です。抜本的な浸水対策を求める地域の要望がようやく実現します。



3.2kmの雨水幹線 2024年までに敷設

凡 例
— 雨水幹線
□ ポンプ場
● 取水箇所
2018年(平成30年)7月豪雨浸水区域



**日本共産党
議員団
NEWS**

発行
日本共産党福山市議会議員団
広島県福山市露町3-1-25 401
電話・FAX 084-922-2815

村井あけみ 高木たけし
土屋ともり 河村ひろ子